

仕事を楽しめる人 F i l e . 6 3 : 霜鳥有美さん (担当保母)



◆「親の子どもへの影響力は、絶大であり絶対」なんだけれど

第63番目の仕事を楽しめる人は、児童養護施設に勤務する、担当保母の霜鳥有美さんです。

児童養護施設とは、

保護者がいなかったり、保護者の適切な養育を受けられなかったりする子どもたちを、より家庭に近い環境で、保護・養育する施設です。

施設での生活は、「おはよう」の挨拶からはじまり、朝食を食べた後に登校し、学校の授業やクラブ活動を終えて帰宅。宿題や読書、友だちとの遊びの自由時間、夕食、入浴をして、「おやすみなさい」と就寝。

一般の家庭と同じような生活環境を整えています。

これらの施設では、子どもたちの日々の養育を担う児童指導員や保育士、食事や食育を支援する栄養士や調理員、子どもの心理面をサポートする心理士など、様々な専門職員がチームとなり子どもたちをサポートしています。

児童養護施設は、全国におおよそ600あり、2歳から18歳の子どもたち約3万人が暮らしています。

霜鳥さんの仕事は、この施設の中で、子どもの養育の中心的な役割となる保護者代わりの役割を担う担当保母です。

霜鳥さんが勤務する施設には、40人の子どもたちが暮らしています。

その子どもたちが、7つの家庭舎で担当保母と一緒に生活しています。

霜鳥さんは、そのうちの1軒の家庭舎の担当保母として7名の子どもを担当しています。

朝一番の仕事は朝食。

毎朝7時ピッタリに集合させて、みんな一緒に朝食をとらせています。

それは、自分の家にいた時に、朝ご飯を出してもらえなかった子どもたちが大半なので、健康な体を養い、きちんとした生活習慣を身に付けさせる上でも、霜鳥さんは、この朝食の時間を重んじています。

次に霜鳥さんが拘るのは、「行ってきます」「行ってらっしゃい」の挨拶。

「行ってきます」と言わない子どもには優しく微笑んで「行ってらっしゃい」と声をかけます。そして、「ちゃんと顔を見て挨拶しましょう」と働きかけます。

子どもたちの多くは親から虐待を受けています。

ですので、施設に来た当初は警戒心が強く、全くしゃべりません。

そこで霜鳥さんたち職員は、子どもたちとの関係づくりに力を注ぐのですが、子どもの心を緩和させるのは、先に施設で暮らしている子どもたちなのだそうです。

一例を上げると、小さな子どもが霜鳥さんに甘えている様子が、近づくきっかけになったり、あるケースでは、中学2年生の子どもが、幼児を真似て霜鳥さんの膝の上ののってきたりする。

要するに、子どもたちが、施設に溶け込む雰囲気を生み出してくれているのです。

年齢に関係なく、甘えたがりを受け入れる。

この姿勢が、子どもたちとの関係を築く足掛かりになります。

そして、一歩ずつ子どもたちとの距離を近づけていくのです。

ところが、「あんたなんか産まなければよかった」と、お母さんから罵られ、心に深い傷を負った子どもに、日々の生活を通じて地道に信頼関係を築き、霜鳥さんたち職員が、

「生まれてきてくれてありがとう」と、語り掛けても、子どもの心には響かない。

子どもたちは自分が悪いから、そのような仕打ちを受けたのだと、頑なに信じているのだそうです。

焦らず、時間をかけながら、子どもたちに「あなたは、何も悪くない」というメッセージを、事実を交えながら訴え続けます。

このように、子どもとの信頼関係を築いていく過程を真剣に話す霜鳥さんの口から、

「子どもの心を癒す上で最高で最良の方法は、〇〇なんです」と発せられた時に、

私は、体が硬直しました。

霜鳥さんが言った、最高で最良の方法とは、  
実のお母さんから我が子に「あの時は、あんなひどい事を言ってゴメンね」と  
謝ることだったからです。

まさに、  
親の子どもへの影響力は、絶大であり絶対。

私は、霜鳥さんから、  
「この現実をあなたは本当に理解して、お子さまと接してきましたか」  
と、尋ねられた気がして、胸が苦しくなりました。

◆霜鳥さんが大切にしているキーワード

美しい  
人として心も行動も美しくありたいと思い描いています。

◆霜鳥さんのパワー○○

自分のことを好きでいてくれる人と連絡する  
どうしようもなく行き詰った時に、自分のことを「大好き」と言ってくれる人に連絡する。  
そうすると、心のもやもやが、晴れます。

◆霜鳥さんのコツコツ

交換ノート  
素直に自分の思いを伝えられない子どもたちが大勢います。けれども、口には出しづらい  
ことも、文章でなら表せる場合があります。  
ですので、交換ノートを用いて、子どもたちとの意思疎通をはかっています。

◆生かされている自分がしたいと思った仕事

霜鳥さんはご主人とともに、ファミリーホームを設立する目標を持っています。

「ファミリーホーム」を調べると、厚労省が定めた制度で、家庭環境を失った子どもを里  
親や児童養護施設職員など経験豊かな養育者がその家庭に迎え入れて養育する「家庭養護」。

養育者の家庭の中で、5~6人の子どもを預かり、子ども同士の相互の交流を活かしなが  
ら、基本的な生活習慣を確立するとともに、豊かな人間性及び社会性を養い、将来自立し  
た生活を営むために必要な知識及び経験を得ることに主要な目的があります。

(日本ファミリーホーム協議会のホームページより抜粋)

「ファミリーホームをつかって、我が子も育みながら、他の子どもたちの面倒もみたい」と、霜鳥さんはさらっと言ってのけたのですが、私は、一瞬、耳を疑いました。それは、子育ては、いいことづくめではないからです。

「もし、子どもが何かの大ごとをしでかした時、あなたは、その責任を負う覚悟ができますか」と問われたら、私には、「はい」と答える自信はありません。何らかの理由で、家庭環境を失ってしまった子どもの最良の支援が家庭養護であると、100%理解し納得できても、「家庭養護をあなたにお願いしたい」と依頼されたら、「私には、荷が重すぎます」とお断りせざるを得ない。そんな大層な仕事を「それが私の夢であり目標なんです」と言ってのける霜鳥さん。霜鳥さんの年齢は私の娘と同じで、まだ、20代半ば。霜鳥さんの慈愛のスケールの大きさに、私は、言葉を失ってしまいました。

ここで気を取り直し、霜鳥さんの思いの根源を探り当てるために、生い立ちを尋ねました。

霜鳥さんが、今の道を選択するきっかけとなったと思える出来事は、高校時代と大学時代にありました。

進学した高校は全寮制。

同級生だけではなく上級生とも下級生とも、密度の濃い生活が始まりました。すると自ずと他者と自分を比較し、自分の劣っている部分が気になるようになりました。歌が上手だったり、運動神経が抜群だったり、勉強ができたり、そんな他人の長所にばかり目がいき、霜鳥さんは、自己嫌悪に陥りました。自分には他者に誇れるものがないと落ち込み、悩んでいると、先生が、「そこまで自分を見つめて考え、感じて、悩むのは、大したものだよ」と、声をかけてくれました。

また、ある時に、高校卒業後の進路の相談にのってもらおうと職員室を訪ねると、職員会議の真っ最中。

にもかかわらず先生は職員室から飛び出て来て、霜鳥さんの話を親身に聞いてくれました。

何かの壁に突き当たり、どうしたものかと思ひ悩むと、いつも先生は、「君の、〇〇の時の笑顔がいい」とか、テストの結果がでなくても、「一生懸命に努力したんでしょ」というように、霜鳥さんの全部を見てくれていて、応援してくれました。

霜鳥さんは、こういう先生たちに接する中で、生かされている自分に気づきました。

「多くの方々からの支援のおかげで、自分は、生かされているのだ」と。

そして、霜鳥さんは、

「私も、生きることに自信を失っている人に、生きたいと思ってもらえるような先生になりたい」との思いが芽生えてきました。

大学では、教育学部を選考し専門の勉強をしながら、児童養護施設で学習ボランティアを務めました。

先生が近くに住み、24時間体制で生徒を支援してくれた全寮制高校の体験。

「単なる学校の先生では満足できないだろう」と、児童養護施設を推薦いただいた大学の先生の一言がつながり、霜鳥さんは、この道を選びました。

他人の子どもを受け入れて、寝食をともにして生活の支援をする。

このようなわけのある子どもへの養育支援を、どれだけの人が実行できるでしょうか。

少なくとも、私には、その覚悟はできません。

これだけの大仕事にも関わらず、さらっとした自然体で自分の思いを語る霜鳥さんにお会いして、見守るだけでなく何か形になる応援をしたいと思いました。

霜鳥さんの家から、多くの元気な子どもが巣立つ。

そんな未来を思い浮かべながら、霜鳥さんとのインタビューを終えました。

#### ◆霜鳥さんのプロフィール

職業：担当保母（資格は児童指導員）

#### ◆児童指導員とは？

（13歳からのハローワーク公式サイトから抜粋しました）

児童指導員は、児童養護施設や、知的障害児施設、肢体不自由児施設などの入所施設において、児童の生活指導を担当する仕事。子供たちが豊かな人間に成長することを目指し、施設の行事や活動を通して、社会へ出て行くためのルールやマナーを指導する。また、児童相談所や児童が通学する学校との連絡、児童の引き取りをめぐる親との連絡面接など、児童の養育と社会関係の調整などの仕事も行う。地方自治体が運営する児童福祉施設で公務員として働くためには児童指導員任用資格が必要だ。また民間施設でも社会福祉士や保育士などの資格所持を採用条件とするところがある。

◆児童指導員に求められる能力

使命感：生きることに自信を失っている子どもに生きる希望を持たせるんだという熱意

自然体：熱い志があっても肩に力をいれず、ごく自然に生きる姿勢

寛容さ：何事も受け入れる度量

感受性：他者の気持ちを汲み取る力

社交性：多くの専門家や周囲の人たちの協力を引き出す力